

世の中を支えるアルプスの技術

スマートフォン



車載

SENSORINGTM

ウェアラブル



家電・PC・ヘルスケア

センシング技術

正確な方位や道路を常に読み取る自動車のナビゲーション、人の動きに合わせて風向きを変えるエアコン、ドアが閉まっていないことを知らせる冷蔵庫、子供が塾から退室したと連絡をくれる携帯電話サービスなど、人やモノの状態を検知する製品やサービスが、私たちの身の回りにあふれ、今や欠かすことのできないものとなっています。

このさまざまな状態を検知することを「センシング」と呼び、実際に検知する電子部品が「センサ」です。何をどのように検知するかによって、センサとして使われる技術は千差万別ですが、当社では長年培ってきた磁気応用技術、抵抗体技術、光学技術、MEMS技術、静電容量検知技術などを活用して製品開発を進め、スマートフォンや自動車、家電製品向けに幅広く「センサ」を送り出しています。

例えば、スマートフォンの画面操作部に使われるタッチパネルがありますが、これも指がどの位置に触れているか、どう動いているのかを検知する「センサ」なのです。当社では静電容量検知技術を使い、指が触れる際の電位の変化を読み取ることで、正確な位置を検出しています。ノートパソコンに搭載されているカーソルを操作するタッチパッドにも、同じ技術が使われています。

自動車においては、シートベルトが装着されていない、ドアがしっかりと閉まっていない、ガソリン不足の場合などに警告ランプが点灯しますが、それぞれの場所に当社の種々の「センサ」が搭載されています。

昨今では、健康に対する関心が高まっています。何時でもどこでも簡単に、体温はもちろんのこと、血圧や脈拍、心拍数などを測りたいというニーズが病院だけでなく、企業での健康管理やスポーツ関係者などから幅広く寄せられています。当社では、近赤外線の波長変化を読み取る「センサ」を開発。これを利用してユーザの利便性を高め、より正確なデータを簡便に測定できる製品開発に取り組んでいます。

当社では、今後もセンシング技術を追求し、もう一つの注力分野である無線通信技術を組み合わせ、社会に貢献する製品を創り出していきます。

ALPS
REPORT

第83期 第1四半期報告書

アルプス電気株式会社 2015年 9月7日発行

No.160

証券コード：6770

Top Message

皆様へ

ごあいさつ

記録的な猛暑も峠を越え、秋の気配を感じる季節となりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

当第1四半期における世界経済は、米国ではドル高の影響から一部に弱さが見られるものの、原油価格の低下や雇用環境の改善などから、景気は引き続き好調に推移しました。

欧州では、ギリシャ及びロシア経済の悪化など懸念材料はあるものの、ドイツを中心とした好調な輸出などから緩やかな景気回復が続きました。中国では、高成長時代が終焉を迎える懸念がありますが、依然として緩やかな成長基調が続き、新興各国はアジア全体で減速感がある一方、インドなどで成長が進むなど、まだら模様となりました。

日本経済においては、設備投資の増加や雇用回復などにより、緩やかな景気回復基調が続きました。この中で、当第1四半期の業績は、車載及びスマートフォンに使用される電子部品が大きく伸長し、売上、利益ともに前年同期実績を上回る結果となりました。

さて、去る6月19日に第82回定時株主総会を当社本社ホールにて開催し、提案した議案は全て承認可決されました。今回は、株主の皆様から会社の成長戦略や開発戦略など現状と今後の方向性、また財務状況や利益計画、配当などへのご質問、ご意見を多数頂戴し、いずれもご説明した内容にご理解を頂けたものと思っております。今後も当社では、「開かれた株主総会」を目指し、説明責任を確実に果たすよう取り組んでまいります。

本年6月から、全ての上場企業を対象として「コーポレートガバナンス・コード」が新たに適用されました。

企業が将来も成長し続け、適切な利益を上げて社会的責任に答えていくためには、単に好業績を追い求めるだけではな



く、確固たる「コーポレート・ガバナンス（企業統治）の仕組み」を持たなければなりません。

当社では、このコーポレート・ガバナンスの仕組みをまとめた報告書をホームページで公表しておりますが、今後改めて追加、見直しし、新たな報告書を年内に提出する予定です。加えて、来年の株主総会では、現在の社外取締役1名の選任から、新たに複数化を提案できるよう検討を進めてまいります。

直近の業況が好調に推移する中、現在、新製品の立ち上げや増産準備を進めております。依然、市場の変化は激しく、繁忙の中にも緊張感、危機意識を持ち続け、全社一丸となって更なる収益拡大に取り組む所存です。

今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長

栗山年弘

財務ハイライト

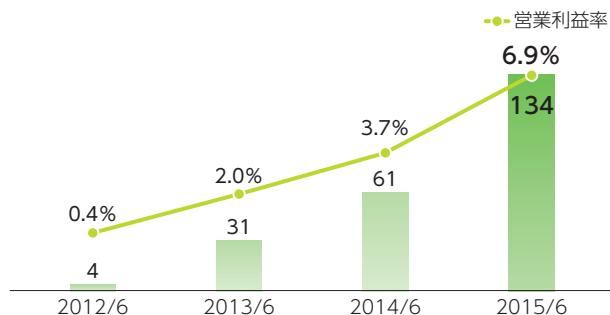
2015年4月1日～2015年6月30日

連結業績の概況

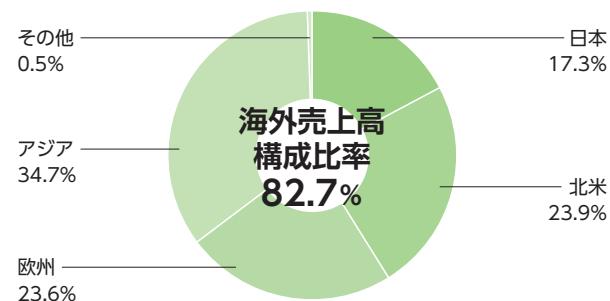
売上高 (単位：億円)



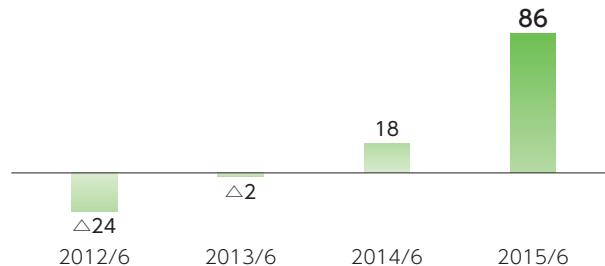
営業利益・営業利益率 (単位：億円)



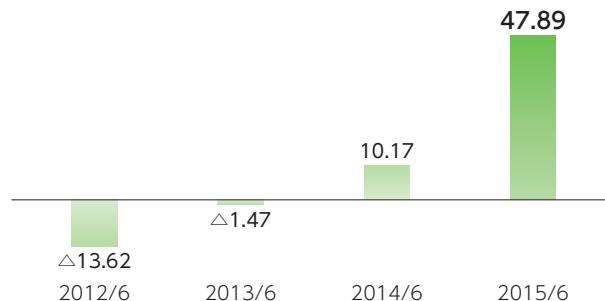
地域別売上構成



親会社株主に帰属する四半期純損益 (単位：億円)



1株当たり四半期純損益 (単位：円)



通期の見通し

2016年3月期 業績予想 (2015年7月29日修正開示)

売上高	7,670億円	(前期比 2.5%)
営業利益	545億円	(前期比 1.8%)
経常利益	545億円	(前期比 △5.4%)
親会社株主に帰属する当期純利益	415億円	(前期比 19.5%)

※想定為替レート：1ドル = 115円
1ユーロ = 125円

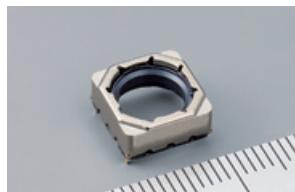
未来の社会を支える注目の新製品

人と地球の明日を豊かにする、暮らしに役立つ新製品を紹介します

ALPS®

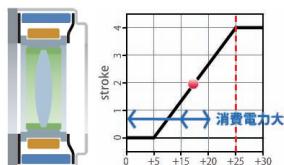
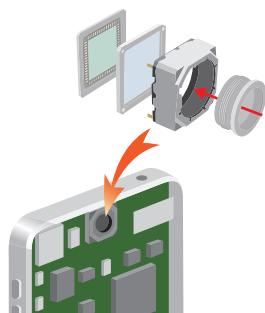
大口径レンズへの対応と低消費電力を同時に実現

オートフォーカス用カメラアクチュエータ バイダイレクションタイプ

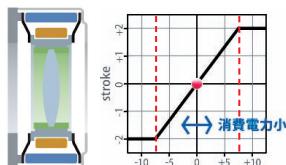


主な用途

スマートフォン、タブレット端末、その他カメラを搭載するオフィス機器など



従来タイプ



バイダイレクションタイプ

スマートフォンに搭載のカメラは一層高性能化が進み、コンパクトデジタルカメラと比べても遜色無く、高画質で撮影できるものが増えています。

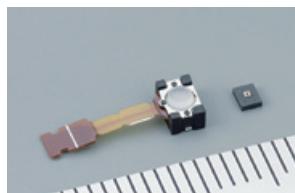
高画質で鮮明な写真撮影には、多くの光を集める大口径レンズが必要になりますが、これを動かすことは消費電力が増加し、バッテリーの消耗が早まります。

そこで当社は、大口径レンズを搭載しても消費電力を抑えることができるレンズ駆動用アクチュエータを開発しました。これまで、一方向にのみレンズを駆動するタイプが一般的でしたが、本製品は、レンズをあらかじめ使用頻度の高い位置に設定し、ピント調整の際に前後両方向（バイダイレクション）に駆動。これによりレンズの移動距離を短くし、消費電力を抑えることに成功しました。

また、独自の金型設計技術や自動機生産などにより、高品質でばらつきの極めて少ない生産体制を確立しています。

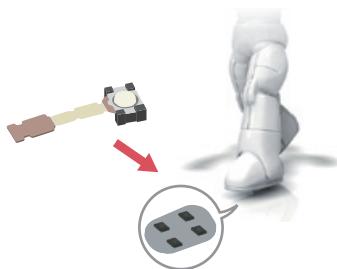
MEMS方式で業界最小かつ高感度検知を実現

フォースセンサ



主な用途

各種インプットデバイス、産業機械、ロボット



近年注目が集まるロボット市場において、接触時の荷重検知や荷重バランス、握力の制御など、さまざまなセンシングをするために、小型で高感度なフォースセンサが求められています。

これまでのフォースセンサには、半導体歪み抵抗素子と、

金属歪み抵抗素子が主に用いられていますが、半導体歪み抵抗素子は高感度でありながらサイズが大きくなってしまい、一方、金属歪み抵抗素子は、小型化できる反面、十分な感度が得られないという課題がありました。

これらに対し、当社は半導体歪み抵抗素子を用いながら、独自に培ったMEMS技術とパッケージング技術を駆使することで、0.01Nというわずかな荷重も検知できると同時に、2.00mm X 1.60mm X 0.66mmの業界最小サイズを実現いたしました。

また、回路基板付きなどユニットタイプもラインアップすることで、耐衝撃性に優れ、かつ、セット側への組み込みも容易となり、今後、産業機器、各種インプットデバイスなどへも展開が期待されています。

2015年5月

- スマートグリッド・省エネ関連の注目展示会「TECHNO-FRONTIER 2015(電源システムエリア)」に出展
- 社会インフラなどの電設技術展 第63回 電設工業展「JECA FAIR 2015」に当社として初出展
- ワイヤレス／モバイル技術の展示会「ワイヤレスジャパン 2015」に出展
- 株式会社アサヒと経営資源の有効な補完関係の構築、相互の事業拡大に向け、自動車関連モジュール製品・部品の開発・設計などの業務提携契約を締結

2015年6月

- センサ及びその応用技術に特化した、米国最大の専門展示会「Sensors Expo & Conference」(カリフォルニア開催)に出展
- 第23回品質工学研究発表大会にて、当社社員がASI(アメリカン・サプライヤー・インスティテュート)賞、貢献賞金受賞
- 第82回定時株主総会を開催

2015年7月

- アルプス・ノースアメリカのシアトル事務所開設を発表
- 大口径レンズ駆動と低消費電力を実現した「オートフォーカス用カメラアクチュエータ バイダイレクションタイプ」を発表
- 2015年度第1四半期決算を発表

2015年8月

- MEMS方式で業界最小かつ高感度検知を実現した「フォースセンサ」を発表

第82回定時株主総会を開催

6月19日(金)10時より、本社ホールにて第82回定時株主総会を開催し、過去最多となる256人の株主の皆様にご来場頂きました。

総会では、上場子会社2社(アルパイン(株)、(株)アルプス物流)を含む当社グループ連結業績結果を、映像を使いながら報告。続いて、栗山社長から本年2015年度以降の事業方針・取り組みについて説明を致しました。

出席された株主様からは、多数のご質問やご意見を頂き、栗山社長及び関係取締役から回答差し上げた後、全議案とも賛成多数により、原案通り承認可決されました。

当日は、会場前スペースにて、当社グループの製品をご覧頂くとともに、本社ビル内の歴史館「ALPS MUSEUM 未来工房」もご見学頂きました。また、閉会後には当社への理解をより深めて頂く機会として、各役員との株主懇談会を実施しました。

新任取締役のご紹介

6月19日に開催された第82回定時株主総会において、新任取締役2名が賛成多数によりそれぞれ選任されました。

常務取締役 **甲斐 政志**
 1978年4月 当社入社
 2003年6月 取締役
 2008年6月 常務取締役
 2011年6月 アルパイン(株)常務取締役



取締役 **岡安 明彦**
 1981年4月 当社入社
 2012年1月 台湾アルプス総経理
 2014年8月 アルプス・中国総経理



アンケートご回答の御礼

5月29日発行のアルプスレポート159号でご案内致しましたアンケートに、多くの株主様からご回答を頂戴致しました。

ご協力頂きました株主様には、誠にありがたく御礼申し上げます。

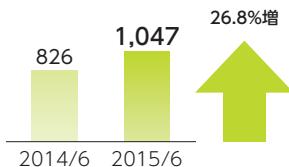
頂戴致しました株主様の貴重なご意見は、今後のアルプスレポートの発行や、当社IR活動、情報発信などに活かしてまいります。

事業別の概況

2015年4月1日～2015年6月30日

電子部品事業

●売上高の推移(単位:億円)

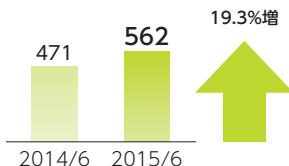


■売上、利益ともに堅調に推移

自動車市場向けの操作入力用モジュール及び車載用通信モジュールの売上高が着実に増加しました。また、スマートフォン向けでは、主要顧客に加え、新規顧客へのコンポーネント製品を中心とした拡販が進んだことにより、売上高が引き続き好調に推移しました。

●車載市場

●売上高の推移(単位:億円)

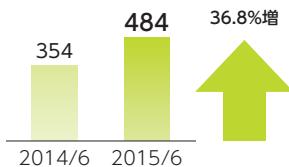


■自動車の電子化への積極取り組み

自動車で「安心・安全、快適、環境」実現のため積極的な電子化への取り組みが進む中、電子シフターやエアコンパネルをはじめとした操作入力用モジュールが堅調に推移しました。また「V2X (Vehicle to X)」などデジタル・ネットワーク活用の広がりを見据え、車載用通信モジュールの開発にも力を入れて新製品を市場に投入し、更に次世代ヘッドアップディスプレイも独自技術を用いた新製品の開発を継続しました。

●民生その他市場

●売上高の推移(単位:億円)

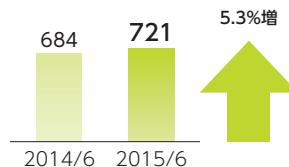


■スマートフォン向け製品が好調

スマートフォン向け、カメラ用アクチュエータの手振れ補正機能付き製品が好調のほか、幅広い顧客に向けた標準品のラインアップを拡充しました。また、タッチパネル用曲面センサ、スイッチ、磁気センサ等のコンポーネント製品も順調な伸びを示しました。新市場においても、新規顧客開拓を積極的に推進し、着実な成果を挙げました。

車載情報機器事業

●売上高の推移(単位:億円)

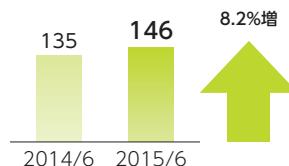


■安心・安全なクルマ社会の実現を目指し新製品を開発

アルパイン(株)(東証一部)では、東芝アルパイン・オートモティブテクノロジー(株)が業界初となる物体の認識・探知機能を搭載した車載用小型カメラを製品化するなど、安心・安全なクルマ社会の実現を目指し、ADAS(先進運転支援システム)に対応した新製品開発に取り組みました。

物流事業

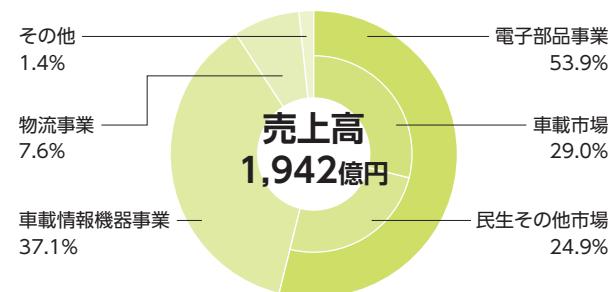
●売上高の推移(単位:億円)



■グローバル・ネットワークの拡充

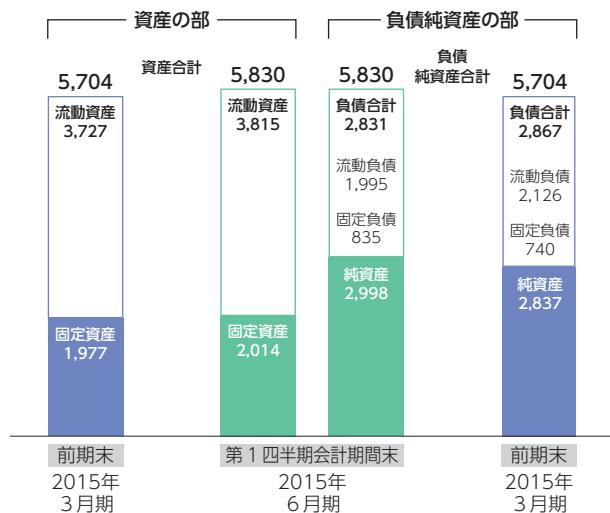
(株)アルプス物流(東証二部)では、取扱物量の拡大に向けたグローバル・ネットワークの拡充や国内・海外が一体となった提案営業の推進に加え、運送・保管・輸出入各事業それぞれの生産性向上に取り組みました。

事業別売上高構成比



連結貸借対照表の概要

(単位：億円)



ポイント

① 流動資産

流動資産は、今後の需要期に備えた在庫増しによるたな卸資産の増加等により、前連結会計年度末と比べ88億円増加の3,815億円となりました。

② 固定資産

固定資産は、機械装置及び運搬具、建設仮勘定の増加等により、前連結会計年度末と比べ36億円増加の2,014億円となりました。

③ 負債合計

流動負債は、短期借入金の減少と、支払手形及び買掛金の増加等により、前連結会計年度末と比べ131億円減少の1,995億円となりました。

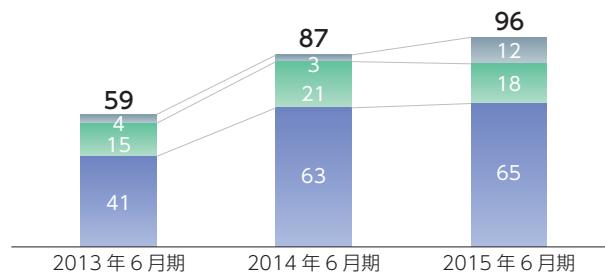
固定負債は、長期借入金の増加と、転換社債型新株予約権付社債の減少等により、前連結会計年度末と比べ94億円増加の835億円となりました。

設備投資・減価償却・研究開発の推移 (単位：億円)

※内訳には連結消去を含んでおりません。

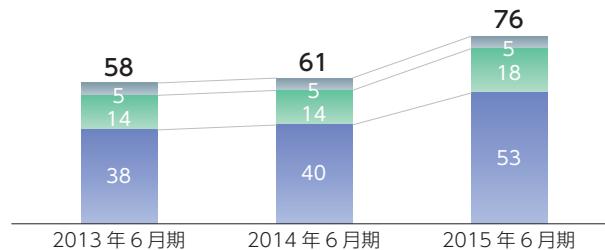
設備投資

■ 電子部品事業 ■ 車載情報機器事業 ■ 物流事業・その他



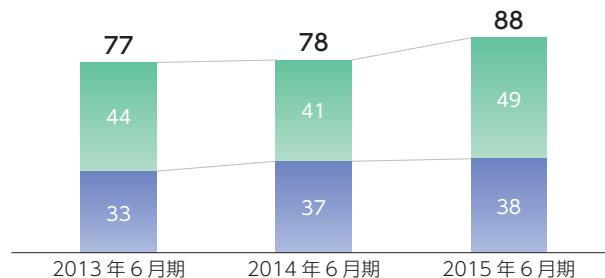
減価償却費

■ 電子部品事業 ■ 車載情報機器事業 ■ 物流事業・その他



研究開発費

■ 電子部品事業 ■ 車載情報機器事業



株式情報

■ 株式状況

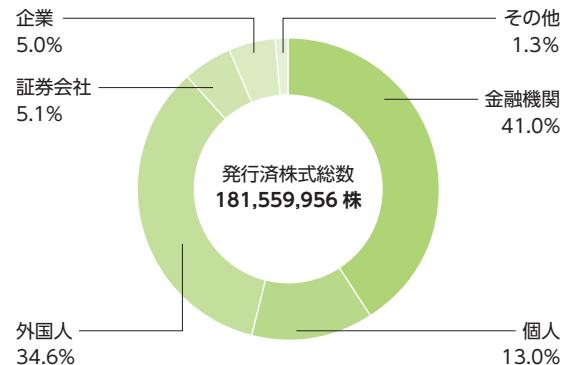
(2015年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数 発行済株式総数
500,000,000 株 **181,559,956 株**

■ 大株主の状況

順位	株主名	株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,847,600	11.48%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	20,383,700	11.23%
3	CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	4,356,088	2.40%
4	三井住友海上火災保険株式会社	3,596,400	1.98%
5	三井生命保険株式会社	3,591,000	1.98%

■ 所有者別分布状況



(注) その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失念株式です。

(注) 個人は、個人・持株会名義の株式です。

IR情報Webサイトのご案内

IR情報

直近の財務諸表からよく頂くご質問まで、分かりやすいメニュー構成で必要な情報を入力できます。2015年の主なIR活動のカレンダーも掲載しておりますのでご確認ください。



IRニュース

当社株式に関連する新しいニュースが掲載されているコーナーです。

アルプス電気 IR

検索

■ 会社の概要

(2015年4月30日現在)

社名 アルプス電気株式会社
 英文社名 ALPS ELECTRIC CO., LTD.
 本社 〒145-8501
 東京都大田区雪谷大塚町1番7号
 TEL. (03) 3726-1211 (大代表)
 (03) 5499-8026 (IR部門直通)

設立 1948年11月1日
 資本金 23,623,571,711円
 発行済株式総数 181,559,956株

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日
 基準日 定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日
 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日
 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日
 その他あらかじめ公告して定めた日

定時株主総会 毎年6月下旬
 公告掲載 電子公告により、当社ホームページ
 (<http://www.alps.com/j/ir/index.html>)
 に掲載します。なお、やむを得ない事由により、
 電子公告ができない場合は、日本経済新聞に
 掲載します。

上場証券取引所 東京(第一部)証券コード6770
 1単元の株式数 100株
 株主名簿管理人及び
 特別口座の口座管理機関
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

三菱UFJ信託銀行証券代行部

検索

【ご注意】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■ 株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター

お問い合わせ

☎ 0120-232-711

(受付時間: 土・日・祝祭日を除く平日9:00~17:00)

住所変更等諸届用紙ご請求

☎ 0120-244-479 (24時間受付)

